

平成 23 年度『我が営業所における CO₂ 削減に向けた取り組み』

神姫バス株式会社姫路営業所
主任運転士 原田 博文

1. はじめに

私ども神姫バス株式会社姫路営業所は、世界文化遺産・姫路城の麓に位置しており、一般路線バス、都市間(夜間)高速バス、リムジンバス、特定輸送、貸切バス等を運行しております。平成 22 年 3 月に全面撤退した姫路市営バスの路線移譲に伴い、姫路東出張所の開設等営業所の規模も拡大、現在、従業員数は 217 名、車両数は 125 両となっております。

当社では環境問題に積極的に取り組み、2004 年には国際標準環境マネジメント規格「ISO14001」を全社で認証取得しております。とりわけ私どもバス事業者の属する運輸部門は、わが国の部門別 CO₂ 排出量全体の約 20% を占有し、さらにその約 9 割が自動車からの排出によるものといわれており、より一層の CO₂ 削減への取り組み・努力は、私どもに課せられた喫緊の課題であると認識いたしております。

当営業所は本社の所在地であり、また最大規模でもあることから、全社的にも注目されております。それだけに管理職・従業員ともにリーダーシップを発揮し、意識と誇りを持って取り組んでおります。

2. 当営業所の取り組み

当営業所では、従業員による「ISO 活動」「事故防止」「路線管理」「地域協力活動」「CS アンケート調査」「お客様サービス」の計 6 班の分科会を組織、中でも「ISO 活動」分科会においては燃費向上を中心とした CO₂ 削減に向けた積極的な取り組みを実践しております。具体的な取り組みといたしまして、

(1) アイドリングストップの励行をさらに強化

- ① 点検後は直ちにエンジンをストップ
- ② エンジン始動は発車 1 分前
- ③ お客様降車時はエンジンをストップ
- ④ アイドリングストップ装置が故障したときの、直ちに修理できる体制の確立

(2) エンジン回転数の抑止

- ① 1400 回転以下でシフトアップ
➢ メーターパネルの回転計 1400 回転上に目安のシールを貼付け
【右写真参照】
- ② 早目のシフトアップ
➢ ノッキングしないぎりぎりの回転でシフトアップ
- ③ トップギヤーの使用
➢ その速度内でノッキングしない最も高いギヤーを使用



(3) 急加速、急減速の厳禁

- ① エンジンブレーキの適切な活用
➢ 予見運転に徹し、手前からアクセルを戻し、慣性走行を
- ② 等速運転に心掛ける
➢ 経済速度の厳守、一般道は 50km/h 以下で走行
- ③ アイドリングでクラッチを繋ぎ、その後にアクセルをゆっくり踏む
➢ 『ふんわり発進、やさしいアクセル』の実践

(4) 空ふかしの厳禁

(4) 八分目給油の厳守

- 給油ガンが停止したらそれ以上の給油は禁止

以上の項目を実践しております。これらは燃費削減のみならず、お客様の乗り心地の改善や車内事故の予防にも寄与することから、私どもバス運行に携わる者にとりまして、非常に重要な項目であります。

3. 課題とその対応（乗務員への意識付けと実践）

これらの上記項目をいかに乗務員1人ひとりが意識を持ち、実践するかが喫緊の課題であり、今以上に乗務員への確実な意識向上を計る方策を模索しております。本年度実施済の取り組みといたしまして、

- ①「ISO 手持ちカード(具体的な取組み事項を記載したカード)」の配布【下記写真①】
- ②掲示物による意識向上
 - 燃費目標、結果を表・グラフを用いて分かり易く表示【下記写真②】
- ③営業所全乗務員を対象にした「事故防止懇談会」での教育



▲①全従業員への「ISO 手持ちカード」の配布



▲②燃費結果は車種毎のバスイラスト(稼働式)・横軸棒グラフにすることにより、一目瞭然に。

等を行っております。特に掲示物につきましては、以前は文章や表を中心とした掲示のみでしたが、乗務員が興味を持って見られるよう上記写真のように改善したところ、掲示板の前で立ち止まって注視する姿も多く見られるようになりました。マナー対策として有効であったと思います。「これでは分かりづらい」という意見を聞き、改善すべく、ISO 活動分科会メンバーである乗務員が考案・改善したものであり、管理職からの指示ではなく、自主的な行動であることは特筆すべき点であると自負しております。

4. 成果

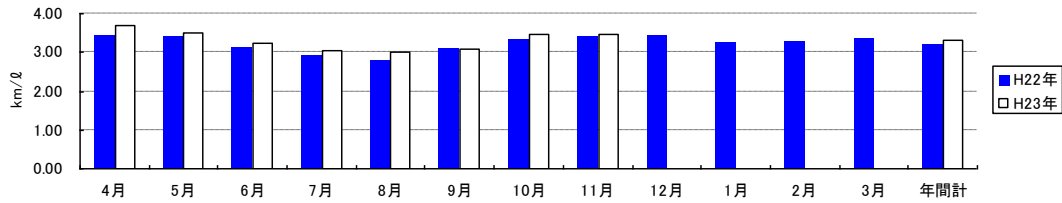
以上の取り組みの結果、当営業所車種毎の燃費は次項の通りです。

姫路営業所車種別燃費比較表

【単位: km/ℓ】

車種	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
高速車 (10両)	H22年	3.73	3.75	3.53	3.13	3.09	4.00	3.82	3.50	3.92	3.52	3.38	3.36	3.56
	H23年	3.83	3.85	3.56	3.17	3.11	3.44	3.80	3.53					3.54
大型車 (34両)	H22年	3.08	3.00	2.72	2.63	2.59	2.52	3.09	3.15	3.05	2.88	2.96	3.06	2.89
	H23年	3.15	3.11	2.92	2.67	2.67	2.69	3.04	3.06					2.91
中小型車 (38両)	H22年	3.71	3.65	3.40	3.26	3.12	3.09	3.63	3.73	3.46	3.37	3.48	3.60	3.46
	H23年	3.90	3.69	3.49	3.30	3.23	3.24	3.51	3.66					3.50
CNGガス車 (8両)	H22年	2.12	2.10	2.14	1.54	1.49	1.88	2.06	2.08	2.02	2.00	2.10	2.03	1.96
	H23年	2.07	2.02	1.87	1.72	1.73	1.83	1.99	2.01					1.91
全車種計	H22年	3.43	3.40	3.13	2.89	2.80	3.07	3.30	3.40	3.41	3.22	3.26	3.35	3.22
	H23年	3.71	3.49	3.23	3.03	3.00	3.10	3.45	3.45					3.31

燃費全車種計



本年度の当営業所のバス燃費は、11月末日現在、全車種平均で1台あたり0.09 km/l増(対前年比+4.1%)と、向上目標である対前年比+1.0%を大きく上回っております(神姫バス全社目標は+0.5%)。

燃費向上に対する取り組みは、昨今始まった訳ではありません。数年来取り組んできたなかで、私たち ISO 分科会メンバーの思いが営業所内全ての乗務員に伝え切れるまでには一定の期間が必要でした。また、取り組みに対する気持ち、実践に対しても乖離を感じていたことも事実です。しかし、「課題とその対応」で述べたように、「自らが考えて実践し、行動で示す」ことを継続してきた結果、「乗務員への意識付けと実践」を広く浸透でき、また無形効果として運転士同士でエコドライブと燃費向上効果についての情報交換・コミュニケーションが活発になったと自負しております。運転士からは、

- ・「自分が意識しだしてから廊下の燃費結果の掲示物をよく見るようになった。前年より向上しているとやりがいを感じる」
- ・「日常会話等から、他の人も心掛けているのがよくわかる。自分が足を引っ張るわけにはいかない」
- ・「他の一般の車両の急加速や急制動が気になるようになった。『自分ならそんな運転操作は絶対しないのに…』と思いながら見ている」

といった感想が挙がっております。

5. 結びに

以上、平成23年度の『我が営業所におけるCO₂削減に向けた取り組み』における、具体的取り組み事項、課題と対応および結果について記述いたしました。

大切なことは、乗務員1人ひとりへの確実な意識付けとその実践であり、そのためには会社や管理職の指示でなく、「今、何ができるか」「今、何をすべきか」を「自ら感じ、気付き、行動する」能動的行動の重要性を認識いたしました。

また、CO₂削減に関しましては、国民的関心事の節電対策として、また、企業理念である「未来創成」のためにも、営業所構内の洗濯機の使用制限(0.5の付く日→月・水・金に制限強化)、営業所内の節電(蛍光灯の間引き、照明やパソコン類の小まめな消灯・電源OFF)、エアコン使用時設定温度の制限(夏季28℃、冬季19℃)等、できることからコツコツと取り組んでおります。

平成24年度のISO目標は更に厳しく設定することになるでしょう。今後も職業運転士として、点呼時のエコドライブ実施の声掛けなど、今自分にできることを自ら実践し、ISO分科会として、また営業所全体としてもCO₂削減の手綱を緩めることのないよう日々邁進していく所存であります。

以上